自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0174100560		
法人名	有限会社 M&Y		
事業所名	グループホーム鶴ヶ岱 I		
所在地	北海道釧路市鶴ヶ岱3丁目7番6号		
自己評価作成日	令和元年10月30日	評価結果市町村受理日	令和元年12月13日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kihon=true&JigyosyoCd=0174100560-00&ServiceCd=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット
所在地	札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401
訪問調査日	令和元年11月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然豊かな春採湖やショッピングモールが近くにあるグループホームです。平成28年に一部増改築を行ない、1階・2階のユニットの棟が離れている作りです。お花見などの行事やボランティア訪問の際は、利用者同士の交流もあり顔見知りの関係を築けるよう支援しております。好天の日には、利用者の体力に合わせ春採湖や町内周辺の散歩に出掛けたり、個々の希望に沿い、外出や季節毎の行事を取り入れて日常生活を送れるよう工夫しております。元気の源はおしゃべりと食べる事だそうで、気の合う利用者同士のお茶会は賑やかです。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は市内有数の市民の憩いの場である春採湖の近くにあり、周囲は学校も多く、また住宅地としても昔から注目されている静かで豊かな自然が色濃く残り、落ち着いた環境下に立地している。事業所は変則的な作りで、2棟の向かい合った建物の1階部分に1ユニットが入りその2階は有料ホームとなり、反対側の建物の2階部分に1ユニット、1階は同じ法人の小規模多機能が事業を展開し、離れているが合計2ユニット18人が同じ事業所として生活を共にしている。当事業所の優秀な点は、開設以来15年にわたり地元と共に過ごしてきた実績の中から、長年続いてきた読み聞かせを含む民謡や舞踊の各種ボランティアの受け入れと育成に尽力し、お祭りや行事での地域住民との交流等々、多彩で幅広い触れ合いを続け、確実に地域の一人としての役割を担っている事を高く評価したい。介護においても、利用者として毎日散歩を欠かさない、という閉じこもらない介護の視点に注目したい。季節や天候に注意しながら、ドライブや買い物、散歩等を含め、少しでも外に出る支援に意欲的に取り組んでいる姿勢に、今後も大いに期待したい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	☒ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができ ている (参考項目:9,10,19)	☒ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	☒ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地 域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	☒ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	☒ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)	☒ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	☒ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	☒ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	☒ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う	☒ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごしている (参考項目:30,31)	☒ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う	☒ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	☒ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を、日常業務や職員会議を通し、職員間で共有し実践に繋げている	共に支え合う 充実した生活環境づくり、を基盤とした運営理念を掲げ、事業所内に掲示し、利用者や家族、職員と関係者に示し、実践で活かせるように取り組んでいる。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	町内会・地域ボランティアの協力を得ながら交流の機会を設けたり、行事参加や日常の散歩などを通し、地域の一人として日常的に交流している。	開設以来15年が経過し、地域との交流もゴミ拾いや資源回収、ボランティアの受け入れ、また事業所や町内会の行事への相互協力等々と日常的な付き合いを維持、促進している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々との交流の場を提供し研修や会議などを通して、認知症の方の理解や支援の方法を発信している。			
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進を定期的に行い、事業所の活動報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	地域の代表や家族、包括等の出席で運営推進会議を定期開催している。議案も防災や行事の報告に留まらず、事故やヒヤリハットまで報告・説明しており、出された疑問点や提案をサービスの向上に繋げている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市担当者とは日常業務を通して情報交換を行い、指導や助言を得ながら協力関係が上手く築けるよう取り組んでいる。	行政窓口とは、申請や疑似解釈等々を介して情報交換を行っており、また指導事項も頂きながら信頼感のある関係を維持している。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止(適正化)委員会が中心となり、内部研修・外部研修を通し指定基準における禁止の対象となる具体的な行為を正しく理解し、都度の振り返り等から身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を設置し、2ヶ月に1度の頻度で定期的に事例等を検討しており、運営推進会議でも報告され、職員には直近の会議で周知徹底している。職員は拘束や抑制の不都合性を十分に理解しており、拘束や抑制等の制限とは無縁なケアに徹している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部・内部の研修を通し、高齢者虐待防止法について学ぶと共に、情報の共有を行い見逃されることが無いように注意を払っている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	自立支援や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に応じて入所後に制度活用された方もおり理解・活用に向けた支援をしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結や解約、改定の際は利用者やご家族の不安などに対し説明を行うとともに文章にも残し双方が理解・納得出来るよう努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者やご家族の意見や苦情には意見箱を設置しているが、ご家族の来所時には話し合いの場を設けて意見交換し運営に反映させている。	利用者一人ひとりの生活について、写真入りのお便りを作成し、毎月自宅に発送しており、また家族の来所時には、気になる点、要望や苦情等の家族から見える当事業所のサービスについて、意見箱を設置し、また直接家族から聞き取り、より質の高い介護を目指して取り組んでいる。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議や個人面談などで、意見や要望、提案を聴く機会を設け反映できるように取り組んでいる。	月に一度のスタッフ会議や毎日の申し送りでは話を聞きとめ、また定期的には年2回の面談の場を設け、職員からの提案や工夫アイデアを受けとめ、日々の実践に活かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の努力や職員の勤務状況を把握し給与水準や労働時間、やりがいなど各自が向上心を持てるよう職場環境の整備に努めており、給与の見直しや退職金制度を取り入れ落ち着いた環境となるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員個々のケアの実情や力量を把握し資格取得に向けたサポートや内外研修の周知で積極的に向上心が持てるよう取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域ケア会議や同業者との研修を通し他事業者と交流を図り、他事業所の活動状況を知る事でサービスの質の向上が出来るよう取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス提供を開始する際は、本人が困っている事、不安な事に耳を傾け職員で情報共有し、本人が安心して生活出来るための関係づくりに努めている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人や家族が必要としている支援を見極め、不安や要望に耳を傾けながらスムーズな関係作りが出来るよう努めている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族が、いま必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。			
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人を介護されるだけの立場に置かず職員と暮らしを共にする者同士の良い関係が築ける様心がけている。			
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月に1度の通信発行を含め、家族とはこまめに連絡を取り、家族が施設に足を運びやすい雰囲気を作れるよう気を配り、共に本人を支えて行けるよう関係を築いている。			
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係を理解し、関係が途切れないよう支援している。	顔馴染みの人の訪問は、ゆっくり過ごせるよう配慮し、墓参りや初詣といった場には家族の協力を得ながら支援しており、昔馴染みの関係性が閉ざされない、途切れないよう努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し利用者同士が関わり合い、支え合えるよう努めている。仲の良い利用者同士のお茶会などは積極的に支援している。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了しても、これまでの関係性を大切に、家族が訪ねてきたり相談事があれば支援出来るよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向を把握し、支援している。	毎日の支援の中から、本人の好き嫌いや望む思いを把握し、職員全員で共有している。最大限、本人の意向に沿える、本人本位の生活になるよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所までの生活歴や馴染みの暮らし方生活環境等を把握しケアに活かしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の一日の過ごし方や状態変化を記録等に残し有する力の現状把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成者を中心にカンファレンスや職員会議、本人と家族の意見、必要な関係者との意見交換をし介護計画を作成している。	担当職員がモニタリング等を集約し、ケアマネが家族の意向を踏まえ、医療的見地も参照し、カンファレンスを重ねて介護計画を実施している。また病気での変更等が生じた場合は、直ぐに対応変更し、常に現状に即した計画になるよう、取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や気づきを記録に残し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況に添って柔軟に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を把握し、散歩やドライブ、買い物、他事業所との交流により、楽しみのある暮らしができるよう支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族の希望のかかりつけ医の受診の際、職員が同行して本人の状態を説明し適切な医療を受けられるように支援している。	かかりつけ医について、本人・家族の意向を尊重しながら受診を支援し、職員の同行か意見書の持参で日々の生活の様子を伝えている。また協力医の往診や訪問看護の活用で安心できる医療体制で日々臨んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員は日常の関わりの中で得た情報を職場内の看護師に伝え、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した際には、安心して治療ができるように病院関係者や家族との情報交換や相談に努めている。又、そのような場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。			
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化又は終末期のあり方については早い時期から本人・家族と話し合いを行い事業所ができることを十分に説明して方針を共有している。	終末期について、看取りの指針を契約時に書面で説明し同意を得ている。最終段階は主治医を中心にチームとして対応し、適切な介護の提供に努めている。看取り介護への職員研修も実施し、看護師、協力医・往診医の協力を得ながら利用者の意向に最後まで沿えるよう、努めている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。			
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災時の対応は昼夜問わず利用者が避難できる方法を身につけており地域との協力体制も築けるが、その他の災害の避難対策は不足している。又、備蓄品等の在庫も足りていない。	年に2回の避難訓練を消防署の指導により、同敷地内の小規模多機能事業所と共に行っている。事業所が傾斜地で隘路のため、迅速な避難が困難な地域であり、地域協力と安全な避難場所の確保を検討している。	災害は不意の発生であり、時と場所を選ばないため、老人を24時間預かっている事業所としては、身近な避難先の確保や冬季の暖房装置の保有等々、安全確保への準備は責務であり、早急な対応に期待したい。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	内部研修や日常業務を通して一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーに配慮した声かけや対応をしている。	接遇は介護の基本であることを常に意識して介護に臨んでいる。特に排泄誘導や入浴時等々で尊厳を損なっていないか、礼を逸していないか、職員間でお互いに注意し日々取り組んでいる。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で本人が思いや希望を言えたり、自己決定ができるように声かけ等をして働きかけている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切にしながら希望にそって支援している			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が楽しみとなるように一人ひとりの好みや量と配膳の方法に気を付けて利用者様と職員と一緒に準備や片付けをしている。	毎日の献立は利用者の希望を聞き取りながら、食材と相談して決めており、後片付け等のお手伝いもお願いしながら、職員も同じ食事、同じ席について、楽しい食卓になるように努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べる量や、栄養バランス・水分量が一日を通して確保できるように支援し、また、記録に残している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口の中に汚れや臭いが生じないように毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアを行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄のパターンを排泄チェック表や記録を確認してトイレでの排泄や、排泄の自立に向けた支援をしている。	排泄はトイレで行う事を基本とし、個人個人の特性に応じながら、衛生機材を検討し、また時間での誘導や仕草にも注目して、トイレでの排泄が自然となるように努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動を行い医療機関と連携を取り、個々に応じた支援をしている。		
45	17	○入浴を楽しむことのできる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴を楽しめるように利用者様の要望やタイミングに合わせた支援をしているが、その日の状況や状態により、時間の変更等もあり要望に応えられない時もある。	お風呂のお湯は毎日入れて、誰でもが入れるように準備し、週に2回以上は入れるように努めている。また拒否者には無理強いすることなく、日や時間、担当者を調整しながら、ゆっくりとした楽しいお風呂になるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣やその時の状況に応じて、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりが服用している薬の目的や副作用、用法や容量について必ず説明書を確認して個々に合わせた服薬の支援と症状の変化の確認を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	張り合いや喜びのある日々を過ごせるように一人ひとりの生活歴や力を活かした役割や好みの物、楽しみごとや気分転換等の支援をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご本人の体調、その日の天気や気温を考慮し散歩やドライブを行ない、お花見など行事企画をしてご家族様と一緒に楽しんで頂ける様支援している。	季節に応じて、ドライブ等でお花見や紅葉狩りを楽しんでいる。すぐ近くの春採湖の散歩は日常的に行っており、釧路港に入る豪華客船も見物に出かけ、閉じこもらない介護に取り組んでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	各職員がご利用者様の希望や力に応じて、お金を所持したり使えるよう支援し、お金を持つことの大切さへの理解を深めている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族やご友人等、大切な人にご本人自ら電話や手紙のやり取りができるように支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間はご利用者様が不快に感じないように快適な環境整備に努め、毎月の予定表や行事へ参加した際の写真を掲示する等、居心地のよい空間づくりを工夫している。	事業所の中心部を占める居間兼食堂は、広い造作で採光に優れており、温度や湿度の管理も適切に保たれている。2階の廊下には段差があるため、格好のリハビリ場となっており、また壁には利用者の写真が貼られ、華美な装飾もなく、ゆっくりと過ごせる工夫が感じられる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご利用者様がお一人でも、複数名でもゆったりとくつろいで過ごして頂ける様な共用空間づくりを工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や寝具類をご自宅から持参して頂いたり、ご本人の思い入れのある物を持参して頂き、ご本人が居心地よく過ごせるように工夫している。	室内には馴染みの家具や椅子が持ち込まれ、家族の写真も壁に飾られて、ゆっくりと自分の部屋として落ち着ける工夫がみられる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下やトイレ内等、手すりを設置し安全面に配慮し、ご利用者様が少しでも自立した生活が送れるように工夫している。		